きりすとこどもえん　２月園だより

２０２１年度　年主題〈共に喜んで～すべての歩みの中～〉

0･1･2歳児２月主題「いっしょに」

月のねがい

◎保育者と一緒に祈ろうとする。◎冬の自然に触れる。
◎全身を動かしたり、手指をしっかり動かしながら遊ぶ。
◎相手の思いに気づきながら、つながりを深めていく。
◎友だちの存在を身近に感じ、関わり合う。

3･4･5歳児２月主題　「わかちあって」

月のねがい

◎家族や友だちのために自分から祈ろうとする。
◎気の合う友だちと誘い合って遊び、気持ちが通じ合うことの喜びを感じる。
◎うれしかったことや、休んでいる友だちのことなど、自分のことばで祈る。
◎遊びの中で、共に喜ぶ経験を重ね、共に明日を楽しみにする。

今月の聖句

「注いでください。あなたの恵みをあなたを知る者に。
あなたの義を心の直ぐな人たちに。」詩篇36：10

聖書には詩篇という書物があります。天地万物を造られた唯一なる神さまに向かって献げられた信仰者の祈りの言葉を集めたものです。その中で、祈る言葉としてよく出てくるものに「恵み」があります。「恵み」とは「憐れみ」であり、「慈しみ」でもあります。しかも、それは上から目線で「恵んであげる」といった類のものでもありません。それは一方的に神さまから注がれるものです。詩篇第２３編６節では、神さまの恵みと慈しみが生涯に渡って、私の後を追っかけてくる、と告白されています。

今月２月の聖句である詩篇第36篇にも、「恵み」という言葉が出てきます。恵みなる神は光でもあると語られています。神は光。すべてを明るくし、温め、見えるようにする。それが、神の性質です。神は光なので、神の前に隠し事をすることはできません。同時に、それはすべてを見通し、暖かさを与えて、安心して生きることができるようにするのです。この光の神のみもとに身を寄せるなら、私たちはこそこそと何かに怯えて生きるのではなくて、毎日安心して生きることができるのです。それは神の恵みであると言い換えることも出来るのです。

私たちは誰もが道を踏み外す弱さがあります。だから、祈りが必要です。間違えることがないように。もし、間違えてしまっても、立ち直るチャンスを何度でも与えてくださる恵みと光に満ちた神がおられる。だから、この神の思いに生きることができるように、自らの間違いに気づくように、開き直ってしまうことがないように祈るのです。自分のために、そして、家族のために、友達のために、お互いのために祈る思いを持ちましょう。　協力牧師　池田基宣

募金のお礼とお知らせ

先般実施しましたお年玉募金にて、**38.781円**集まりました。貧困対策等に役立てられるよう日本国際饑餓対策機構に送金させていただきます。皆様のご協力に心から感謝致します。

２月の行事予定

5日（土）	おゆうぎ会
7日（月）	振替休日（１号）
8日（火）	誕生会(2才以上2月生)
16日（水）	参観日（あい組）
17日（木）	参観日（いるかグループ）
18日（金）	参観日（くじらグループ）
19日（土）	役員会
22日（火）	お別れ遠足・弁当日
26日（土）	めぐみ組誕生会(1~3月生)

３月の行事予定

1日（火）	弁当日
5日（土）	第64回卒園式・父母会総会
9日（水）	誕生会(2才児以上3月生)
12日（土）	参観日(ひかり組教材渡し)
18日（金）	終了式(1号午前保育)
30･31日	休園日（新年度準備の為）

学びの時を感謝！

先月の職員研修にあたり、早迎えなどのご協力ありがとうございました。3歳以上児担任は熊毛地区の研修会に参加し、「子どもの主体性がいきる保育者のかかわり」という研究テーマで、他園の先生方と意見交換ができました。また、未満児組の職員は、大豆生田啓友先生著の『ていねいな保育』を基に、保育の原点を見つめ直す時間とさせていただきました。人格の基礎を育む0～2才児に関わる者として、何が必要とされるか、こんな時はどう対処したらいいのか、そのことで子どもの何が育っていくのか、を事例を出し合いました。各事例における援助や声かけのあり方を率直に出すことで、あっという間に時間が過ぎるほど活発な意見を交換することが出来ました。

0～2才児は、目で見える成長（体の成長）と目に見えない成長（心の成長）がたくさん交差しています。その中でも”魔の2才児”と呼ばれるイヤイヤ期に、お母さん方もお手上げ状態になってしまうのではないでしょうか。イヤイヤ期は”自立への第一歩”と言われていますが、園でも「○○しよう！」の声に、「イヤー、ダメー！」とよくあるやりとりがあります。あの手この手で日々試行錯誤です。ある日、園長から勧められた大豆生田先生の『非認知能力を育てる、しつけないしつけのレシピ』の中に、イヤイヤ期の関わりのポイントが掲載されていました。

○共感する（スキンシップや気持ちを言葉にしてあげるなど）**○待つ、見守る**（気持ちが切り替わる時間をゆっくり待つ）**○選択肢や見通しを示す**（こうしてみる？など子どもが選択できる言葉掛け）**○ I(アイ)メッセージ**（ありがとうなど大人の気持ちを伝える）

大変と言えば大変ですが、イヤイヤ期を味わえるのも今だけです。保護者の方とありのままの姿を語り合いながら楽しんでいけたらと思っています。いよいよ、おゆうぎ会のおけいこも仕上げの段階になり、子どもたちも楽しみながら頑張っているところです。いろいろと心配な状況ではありますが、当日をどうぞお楽しみに♪　　主任:伊豆元

答えの出ない事態に耐える

暦の上ではもうすぐ立春。川沿いの河津桜も花を咲かせ始めました。まだまだ寒い朝が続きますが、昼間は温かい春の息吹も感じるこの頃です。おゆうぎ会のお稽古の集中のあと、園庭ではその鬱憤を晴らすかのように、元気いっぱいに駆け回っている子どもたちです。頑張ってきた子どもたちのためにも、なんとか実施できるよう知恵を出していきたいと思っております。

新型コロナウイルスも、ほぼ「オミクロン株」のフェーズに入ったようです。この状況がどうなっていくのか、いつまで続くのか、解決するすべが見えない現実。仕事や教育、社会のありようが問われています。人生の歩みはつらいことの連続ですね。以前にも、子供たちに身につけて欲しいレジリエンス「立ち直る力」とネガティブ・ケイパビリティ「対処できない事態に耐える力」のことを少し書きました。ネガティブ・ケイパビリティ（negative capability）とは、直訳すれば負の能力。「どうにも答えの出ない、どうにも対処しようのない事態に耐える能力」をいいます。通常「能力」といえば、何かを処理して問題解決をする力をいいますが、ネガティブ・ケイパビリティは、その裏返しの能力です。その特長は、ものの道理や人生で大切な人間としての徳目に繋がることです。

まず**共感**（empathy）です。他者の感情や痛みを分かち合うこと。共感には度合いがあり、頂点は「相手を思いやる心」。「利他の心」といってもいいでしょう。この共感が成熟していく過程に、ネガティブ・ケイパビリティが常に寄り添っています。そして、**寛容**（tolerance）です。人を赦し、受け入れ、お互いがそれぞれの立場を尊重することです。この寛容を支えているのが、ネガティブ・ケイパビリティなのです。つまり、どうにも解決できない問題を、宙ぶらりんのまま、何とか耐え続けていく力が、寛容の火を絶やさずに守っているのです。私たちの人生や社会は、そう簡単には解決できない問題に満ちあふれています。人が生きていくうえでは、解決できる問題よりも解決できない問題のほうが、はるかに多いのだと思います。そして、この概念を知ることにより、楽になる、生きやすくなるという効用があるようです。今すぐに解決できなくても、何とか持ちこたえていくということ自体が一つの能力だと言われれば、誰でも心が軽くなりますね。苦難に直面するたびに、ふんばる力がつき、耐えていく持続力を生み出すはずです。どうしようもない状態を耐えぬいた先には必ず希望を失わない人生が待っていると信じましょう。『ネガティブ・ケイパビリティ　答えの出ない事態に耐える力（帚木蓬生）』より。

次第に日差しや肌に触れる風が、心地よくなってくるでしょう。冬ごもりしていた土の中の虫たちが這い出てくる季節です。おゆうぎ会が終わると、全部の演目をみんなで一緒に表現して楽しみます。小さい子どもたちが、他の表現の動きをよく覚えていることにいつも驚かされます。この主体的で自由な活動を導くためにおゆうぎ会があると言っても過言ではないでしょう。残り少ない三学期を思う存分楽しんでいきます。

学園長

自分たちで考えたり工夫したりしながら、遊びを充実させていく

自分達で考えたり、工夫したりしながら、
遊びを充実させていく

この時期には、それぞれの子どもたちの遊びがこだわりを持ったものになり、様々な素材を使って子どもたちの遊びを創っていくようになります。そこで、この時期のねらいを「自分たちで考えたり工夫しながら、遊びを充実させていく」としています。

遊びが充実するとはどういうことでしょうか。それは、どの年齢の子どもも同じですが、「遊び混む・熱中する」ことでしょう。ただし、この時期になると、子どもたちの思いも「より本物らしくしたい」など、「思い描いたものを実現させたい」というようになってきます。そして、自分だけの満足よりも、仲間と一緒に実現させたいという思いを持っています。ですから、先に述べた「共通のめあてを見いだす」ことを支えながら、友だちと一緒に思い描いたことを実現できるように支えていく援助が有効になります。遊び混むことは、考えたり工夫したりする経験が必然的に含まれます。思考力の基礎を育てることは、特別な活動をすることではなく、遊びが充実することの中に含まれているのだと思います。

松元信吾：編著　（風呂島大学附属幼稚園）